



一般社団法人
日本ヘルスケア歯科学会
事務局 東京都文京区関口1-45-15-104
Tel. 03-5227-3716
Fax. 03-3260-4906
URL <http://www.healthcare.gr.jp>
E-mail: center@healthcare.gr.jp
編集代表 林 浩司
編集制作 有限会社 秋 編集事務所

学会入会金	歯科医師	5,000円
	その他	3,000円
学会年会費	歯科医師	12,000円
	その他	3,000円
郵便振替口座	00190-7-407895	
名義	一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会	
銀行振込口座	三菱UFJ銀行 江戸川橋支店	
	普 0051809	
名義	一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会	

CONTENTS

巻頭 しなやかに乗り越えて、新しい様式(Web)にも対応していきましょう..... p.1	ヘルスケアフォーラム p.13
ウェビナー開催報告 p.3	新入会音信 p.13
事務局から p.8, 11	調査1 Doプロジェクト 拡大調査について p.14
ヘルスケアWebセミナー9月 p.9	Healthcare bibliography p.15
ORCA 2020 報告 p.10	ウェビナー告知板 p.15
書評/書籍紹介 p.12	ヘルスケアミーティング2020案内 p.16

催しものご案内

- | | |
|---|--|
| ①ヘルスケア オンラインサロン
日時：2020年9月8日 21:00～
内容：イエテポリ大学カリオロジー科に留学中の石塚先生に聞く | ④ヘルスケアWebセミナー
日時：2020年9月23日 20:00～
内容：カリエスマネジメントセミナー(第4回) |
| ②ヘルスケアWebセミナー
日時：2020年9月9日 20:00～
内容：ICDASNCCL (Noncarious Cervical Lesion: 非う蝕性歯頸部歯質欠損) アップデート2020 | ⑤ヘルスケア オンラインサロン
日時：2020年9月29日 21:00～
内容：コミュニケーションの原理とコツ |
| ③ヘルスケア オンラインサロン
日時：2020年9月15日 21:00～
内容：皆何使っている？ おすすめ機械、器材について話そう | ⑥ヘルスケアミーティング2020
日時：2020年11月22日
会場：秋葉原カンファレンスフロア会議室 およびオンライン |

重要なお案内

- 以下の同封物をご確認ください
1. 会員用ホームページパスワード変更のお知らせ
2020年度会費納入済みの方に同封しています。
 2. 口座振替のご案内
振替登録されていない方に送付しています。



しなやかに乗り越えて、新しい様式(Web)にも対応していきましょう

高橋 啓 (コアメンバー)

皆さん、まだまだ新型コロナの影響を受けつつ日々頑張っていることと思います。新型コロナウィルス対策については、ヘルスケアのホームページに杉山精一さんがいろいろな情報を載せてくれています。ぜひとも、ホームページにアクセスして参考にしてください。日本ヘルスケア歯科学会としては、このような状況のなか、今できることは何か？ を考えて、動いています。日本ヘルスケア歯科学会は、歯科診療所で働く全員を応援しています！ だからこそ、今できること、何が必要かを常に考えて冷静に行動しましょう。このような状況下では、いろいろなところから情報を得て、それがどこまで信憑性があるかどうか検討しながら、前に進まないといけません。

診療所スタッフの皆さんは、今の診療はどうですか？ 患者さんと接するのが怖いという人もいるかもしれません。医院でいろんな話をしながら、他院の対応も見ながら、ともに歩みを進めていきましょう。皆さんのなかには、「ここは院長の歯科医院だから…」と思われている方もいるかもしれません。確かに院長は、その医院の運営トップですし、いろいろな判断を求められる立場です。しかし、医院は皆さんの医院でもあると思います。ヘルスケアの診療所は、院長一人の力で成り立っている診療所ではないと思います。こういった機会にこそ、いろんなことを院内で話合っ活路を見出そうではありませんか。いろんな意見や見方を院長と前向きに相談してください。

一方でヘルスケアの診療所には、診療所を信頼してメンテナンスに通ってきてくれている患者さんが数多く存在します。その人たちは、皆さんの対策を信じているからこそ、このような時期でも来られていると思います。だからこそ、自分も守り、患者さんも守ることも忘れないでください。「新型コロナが怖い」ならば新型コロナの何が怖いのかを考える時期にきていると思います。患者さんがどう思っているかは、患者さんに聞いてみましょう。それができるのもヘルスケアではないでしょうか。医院の対応は、当然いろんな対応があると思います。どの医院も皆同じように対応すればいいという問題ではありません。しっかりと地域で医院での対応を見つけてください。

そして、日本ヘルスケア歯科学会としては、新しい時代に対応して、いろんな行動を始めています。その核になるのが、オンラインサロンとWEBセミナーです。すべて学会ホームページに載っていますので、まずはホームページにアクセスして確認をしてください。



❖ オンラインサロンについて

ヘルスケアのオンラインサロンは、WEBにおける無料で会員が集まる場と考えてください。毎週火曜日の夜に開催しています。これは担当のホストと運営メンバーが決まっていて、テーマも一応決めてあります。何も目的もなく、集まって話をしましょうというのものなので、そういった形になりました。また、形式だけなのですが、WEBからの申込制にさせてもらっています。出席者を確認するために、申込制にご協力をよろしくお願いします。オンラインサロンに関して一番大事にしていることは、「一人で考えるより皆で考えよう。情報交換しよう」です。普段、集まりになかなか出られない人も、平日の夜なら、都合をつけることができる人も多いのではないのでしょうか。ヘルスケアの会員だけど、あまり知り合いがいないし、参加しにくいという人は、高橋までメール (info@tak-dental.com) を下さい。一緒に参加しましょう。私も昔、ヘルスケア歯科学会の会員になったときは、誰も知り合いがいませんでした。こんな時代だからこそ、いろんな所でいろんな情報に触れることがとても大切だと考えています。ぜひ、よろしくお願いします。



❖ Web セミナー

Webの有料セミナーもどんどん開催していきます。WEBセミナーの方は、講師を立ててプレゼンをしてもらいます。既に、8月26日までに4回のセミナーを開催しました。内容も多岐

にわたっています。杉山精一さん（八千代市）のリエスリスマネジメントセミナーは、今後も定期開催していく予定ですので、参加し損ねた人は、次回がすぐきますので、楽しみに。また、コアメンバーの齊藤 仁さん（札幌市）にも色んな多岐にわたる面白い企画をお願いしています。ほかにも、いろんな展開を考えていますので、楽しみにチェックしてください。



オンラインサロン、Webセミナーに関して、一つお願いがあります。これはどれも同じ会員が運営しています。すべてに報酬があるわけではありません。ほぼボランティアです。まだ、始めて間もないので、トラブル等の発生も予想されます。準備して、予行して行っているのですが、トラブルに巻き込まれたときは、最大限善処しますので、寛大な心で対応をお願いしている次第です。

❖ ヘルスケアの twitter, Facebook

日本ヘルスケア歯科学会として、twitterやFacebookのアカウントを開設して、事務局からも情報発信をしています。ここでも皆さんにお願いです。twitter, Facebookのアカウントをお持ち方は、ぜひとも「いいね」をお願いします。それが、情報発信を頑張ってくれている事務局の皆さんへの応援になります。大切な我々の仲間です。こちらも、よろしくお願いします。

長々と書きましたが、私が一番伝えたいことは、「皆で危機を乗り越えよう！」です。今まで通りでは、この危機は乗り越えられません。ジリ貧になっていくことは目に見えています。だからこそ、ここまでヘルスケア診療をやってきた会員診療所同士として、いろんな協力、情報交換をして、しなやかに乗り越えていきましょう。

本来ヘルスケアは、集まることでの関わりを大事にする学会です。今はオンラインに力を入れていても、ヘルスケアミーティングにおいて皆で集まること、各種セミナーで集まることを大切に考えていることは、変わりません。日々の診療を頑張りつつ、時にオンラインを有効に活用していきましょう。



ウェビナー開催報告

林 浩司（コアメンバー）



新型コロナウイルス感染症禍による社会の変化に対応すべく、日本ヘルスケア歯科学会では、いろんな取り組みを始めています。その一環として、日本ヘルスケア歯科学会会員が気軽に集まれる場をWEBで提供しています。会員と会員診療所のスタッフであれば、診療室のいろんな話をしたり、相談にのってもらうことが可能です。ただ集まるだけでは、仲良しクラブになってしまいますので、その日その日のテーマを決めて（ホストのメンバーが話題提供）、集まる形をとっています。気軽な集まりなので、テーマ以外の相談、話題もオーケーです。ぜひ、積極的に参加してください。

担当責任者：ホストメンバー調整担当；高橋 啓、運営メンバー調整担当；渡辺 勝）

ヘルスケアオンラインサロン

第1回 2020年7月14日（火）20:00～ 雇用調整助成金の仕組みと手続き（ホスト；秋元秀俊）

オンラインサロンは、Webを使って会員が気楽に集まって語れる場を提供したいという趣旨で始めました。

今回のサロン1回目は秋元秀俊さんホストによる「雇用調整助成金の仕組みと手続き」という内容で行われました。

新型コロナウイルス感染対策に関する助成金・融資などについては当学会ホームページに大変わかりやすく紹介されています。トップページの「COVID-19 感染対応情報室」をクリックし、「経済的影響への対策」を選んでみてください。

自分も今回のサロンに参加するにあたり、このサイトを閲覧しました。コロナ禍でも通常に診療をおこなっていた当院では助成金等について不勉強で、こんなに多くの種類の制度があることを初めて知りました。そこで、今回は会員の方がどこまで制度を利用しているのか、また自分が利用できそうな助成金等の制度があればと思い参加しました。

初めに秋元さんから雇用調整助成金の意図と申請方法の説明があり、当初煩雑だった手続きが簡素化され、今は比較的簡単に申請できるとのお話がありました。参加者のなかで数名は申請済みで、顧問社労士にお願いした方や奥様やスタッフに任せて手続きした方もいました。

その後、持続化給付金、第二次補正予算における新型コロナウイルス感染症対応従事者慰労金交付事業、医療機関・薬局等における感染拡大防止等支援事業の支援（厚生労働省）、新型コロナウイルス感染症特別貸付（政策金融公庫）等について話題がもりあがり、参加者から様々な発言がありました。このサロンの良さは、地元歯科医師会では知り得ない、他県の情報を共有できることだと思いました。

そして参加してみると、皆さんがいろいろと工夫されてこの



厳しい状況を乗り越えていることが分かります。また若い方の質問に対して参加者から多くのアドバイスがあり、私にとっても大変勉強になりました。

参加者の活発な意見があつて予定時間を過ぎてしまいましたが、今回のサロンのまとめとして、一時休業や退職したスタッフを守るための補償制度であり、雇用者がきちんと情報を共有しこのような様々な助成金制度を積極的に利用すべきだろう、との結論で終会となりました。

この初回は、ホストのトラブルシューティングに不手際があつて、スタートが遅れましたこと、お詫び申し上げます。オンラインサロンは、今後も様々なテーマでほぼ毎週火曜日開催していく予定です。興味がある内容がありましたらぜひ、気楽に参加してみてください。

第2回 2020年7月28日（火）20:00～

嬉しかったことありますか？ 変えたことありますか？
（ホスト；杉山精一）

第2回目は杉山精一さんがホストを務め「嬉しかったことありますか？ 変えたことありますか？」というテーマで行われました。

当院は栃木県の地方で開業しており、新型コロナウイルスの影響は都心部程ではありませんが、最近第2波といえる影響で市内でも一人二人と感染者が出てきています。このような先が見えない状況下ですが、「嬉しかったことありますか？ 変えたことありますか？」について考えると、患者さんから労いのお言葉をいただいたり、スタッフが感染対策に前向きに考え、提案してくれて院内の改善に繋がったりと、いろいろとよかった点を見直す機会になりました。また他の医院はどうしているのか好奇心がありぜひ参加してみようと思いました。

運営担当の田中勝幸さんの司会のもと、まずは一人ひとり自己紹介と近況報告を行い、和気藹々とした雰囲気の中で始めました。

まずは、ホストがZoomの画面共有を用いてスライドを準備し、杉山歯科の「嬉しかったことありますか？ 変えたことありますか？」の簡単な情報提供をしていただきました。千葉県八千代市という東京近郊の都市部で開業されて、感染対策に追われる厳しい状況のなか、杉山さんも自分と同様、患者さんやスタッフに感謝する機会となったようです。

その後参加者から、院内でのLINEの活用法、もしコロナウイルス感染者を診療してしまった場合の対処法、エアロゾルについては特に口腔外バキュームや超音波スケーラー、エアフローの使用について、口腔内写真用カメラのカバーリング（カメラのカバーリングの方法については動画を後ほど提供していただきました。）など様々な意見が出ました。新型コロナウイルスという未知の感染症について、歯科医療はどこまで予防対策をしていけばいいのか議論が深まりました。

最後に、今回のサロンを取材したデンタルダイヤモンド社の多川さんからも一言いただきました。そのなかで、今年のデンタルダイヤモンド4月号掲載された渥美克幸先生の口腔外サクシオンの効果的な使用法の紹介や当学会のWebセミナーやサロンのレポートをお約束いただき、大変有意義な時間を過ごしました。



第3回 2020年8月4日(火) 20:00～

ヘルスケアってなんだろう？ (ホスト；丸山和久)

第3回目は丸山和久さんがホストを務め「ヘルスケアってなんだろう？」というテーマで行われました。

当院が開業したときから関わってきた「ヘルスケアってなんだろう？」について考えると、患者さんとの関わり、スタッフとの連携など色々と学んだことがありますが、まずは自分自身の診療スタイルが勤務医のときとまったく変わったことです。そして、すべての歯科治療のベースとなる診療スタイルになりました。また他の参加者はどう考えているのかに関心があり、ぜひ参加してみようと思いました。

今回は多数の参加者があり、まずはZoomのブレイクアウトルームというシステムで少人数のいくつかのグループに別れて話し合いをしました（運営委員が頑張っていたいただき参加者は混乱なく進行しました）。大人数になるとなかなか発言ができないことを考慮すると大変有意義な試みだと感じました。

最初のグループでは「ヘルスケアというワード」を使って思ったことを話し合いました。私の参加したグループでは、各々近況報告をして最近のコロナ禍のなかで「ヘルスケア」だったからよかったことを話していきました。30分程各グループで話し合い、その後全体で集まって各グループのまとめを報告しました。

次に、また別グループに分かれてフリートーク重視で「ヘルスケアって予防の勉強ができるのですね」と聞かれたときに何と答えるかというテーマでそれぞれ話し合いました。

グループに分かれディスカッションが終わり、いろいろと報告を聞いたなかで印象的だったのが、「スタッフを大事にすること」でした。ヘルスケアの院長はスタッフに対する愚痴を言う方はいなく、むしろスタッフを大事に考え、スタッフの成長を喜んでいる方ばかりだという話でした。16年目になる当院でも半分以上は10年超え勤務のスタッフで本当にスタッフは大切な存在であり、この話には大変共感しました。

最後に、自宅に居ながら北海道から九州在住の参加者といろいろディスカッションできることはオンラインならではの楽しみだと思いました。

第4回 2020年8月11日(火) 20:00～

なんでうちには来ないのか？

歯科衛生士の雇用問題を考える (ホスト；斉藤 仁)

第4回目は斉藤 仁さんがホストを務め「なんでうちには来ないのか？ 歯科衛生士の雇用問題を考える」というテーマで行われました。この日もデンタルダイヤモンド社の取材がありました。



少子高齢化が進む現在、学生数は少なくなり近年各地域の歯科衛生士専門学校では定員割れになっているようです。歯科界では慢性的に歯科衛生士不足となっており、ヘルスケア歯科診療においては必須の歯科衛生士の雇用問題をどのように考えているのか、というテーマに大変興味を感じ参加しました。

まず、「現在、歯科衛生士の雇用に困っている」「以前困っていたが、現在は困っていない」「今までも現在も困っていない」という項目で参加者各々にインタビューをしました。その中でいくつかキーワードとなる内容にまとめ、「そもそも募集しても集まらないのか」「募集して雇用はできるが、すぐ辞めてしまうのか」「雇用してしばらく勤務しても様々な理由で休職・退職していくのか」というように、ホストがいくつかの問題点に整理しました。

それぞれの解決すべき問題をディスカッションしていくなかで気づいたことは、歯科衛生士を雇用するには工夫が必要だということです。例えば、近隣の歯科衛生士専門学校に何かしらの働きかけをする、今いるスタッフを援助して歯科衛生士にする、来院している患者さんに歯科衛生士の仕事をアピールする等の工夫が必要であり、普通に求人してもなかなか集まらない時代になっていくのではないかと、という意見がありました。

また、今回参加した歯科衛生士からは、新卒求人では給料や福利厚生などの待遇面も大切であること、学生向けにオンラインで歯科衛生士という仕事の充実性などを話し合える場を作ってみてはどうか、という意見をいただきました。

最後に齊藤さんから、今回のテーマは2回3回と継続して開催し、何かしらの学会としての解決策を見つけたいという結論でサロンは終了しました。

第5回 2020年8月18日(火) 20:00～

『保険診療でヘルスケア』をみんなで話しましょう～

(ホスト：岡本昌樹)

今回は岡本昌樹さんがホストを務め「『保険診療でヘルスケア』をみんなで話しましょう～」というテーマです。

岡本さんは栃木県歯科医師会の保険担当理事や国保の審査委

員を務めており、その経験からホスト役を買っていただきました。保険請求における実際の声を聞ける貴重な機会であることと、今回の保険改正がヘルスケア診療にどのようにプラス面があるのか知りたくてサロンに参加しました。

最初にホストから数枚のスライドで、今後の診療報酬の方向性と新設された歯周病重症化予防や歯科疾患管理料の長期管理加算などの説明がありました。社会保障審議会では、国民の健康寿命の延伸と人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の実現を考え、疾病対処型報酬だけではなく重症化予防のための給付を視野に入れた診療点数の配分に向かう方向性が示されており、定期的健康管理を重視しているヘルスケア歯科診療にとっては追い風の時代になるとのお話がありました。しかし、公費による保険請求はある一定のルールがあるので(個別指導に立ち会う立場から実際の例で)注意が必要な点を提示していただきました。

その後参加者から様々な質問があり、一つひとつ丁寧に対応していただきました。日々の保険診療の算定方法についての疑問を、サロンでしか聞けない本音も交えて話合いました。特にコロナ禍の影響によるレセプト減少と一件当たりの点数増については、全国的に何処の都道府県でも認められ、今後の動向を注視する必要があるとの事で大変参考になりました。

ほぼ全員の参加者から発言をいただき、最後に鈴木正臣さんが「このような機会をいただき感謝します」という感想を述べられ、盛会のなかサロンは終了となりました。

第6回 2020年8月25日(火) 20:00～

デンタルXとウイステリアの併用について

(ホスト：田中正大)

第6回目は田中正大さんがホストを務め「デンタルXとウイステリアの併用について」をテーマに行われました。

実はこのテーマについては、今年3月にデンタルXユーザーの診療所で何とかウイステリアを併用できないかという目的で、田中歯科クリニックで数名の院長が集まり、デンタルXやレセコンその他の患者データをウイステリアにコンバートした経緯がありました。約半年後、各診療所でどうなっているのかという興味もあり参加しました。

当院は(日本ヘルスケア歯科研究会に入会する前から)開業時にデンタルXを導入しました。入会后何度もウイステリアの魅力を感じ、いろいろとセミナーを受講したりしながらそのままデンタルXユーザーに留まっていたのですが、3月の集まりでコンバートしたことをきっかけに、当院でも日々ウイステリアに入力しています。しかし、果たしてこれでいいのか五里霧中の状況でしたので大変有り難いサロンでした。

サロンの中で田中さんはZoomの画面共有を使い、日々行っ

ているウイステリアの入力方法やデンタル X のリスク統計の実際の使い方を説明くださったのですが、それが大変勉強になりました。また参加者から、全てのデータを入力していくにはハードルが高いので、少しずつ知りたいデータだけでも入力していけば、という意見も参考になりました。

デンタル X ユーザーにおいては、今後デンタル XR へ移行するというお知らせが届いていると思います。デンタル XR では、今まであった「リスク統計」がなくなるという噂もあります。

患者一人ひとりのデータ（線の医療）は可能ですが、診療所全体のデータ（面の医療）は今後デンタル X ユーザーにとって難しくなるかもしれません。そうなる場合今後デンタル X とウイステリアの併用の目的は、患者一人ひとりのデータはデンタル X、診療所全体のデータ分析はウイステリアとなるかもしれません。

ぜひ、ウイステリアの導入、移行を考えていただければとの内容でサロンは終了しました。



ヘルスケア Web セミナー

第1回 2020年7月7日（火）20:00～ カリエスマネジメントセミナー（講師；杉山精一）

当学会で初の試みとなる記念すべき第1回目の Web セミナーは、杉山精一代表による「カリエスマネジメントセミナー」でした。カリエスマネジメントセミナーは3回のコースになっており（その後6回完結に修正された）、初回は ICDAS・XR の紹介・使用法、実際に症例写真を提示して診査の基準等のレクチャーでした。

ICDAS・XR は当学会のなかでかなり浸透していると思われていますが、2019年歯科医師国家試験の出題や歯学部・歯科衛生士の教科書にもいくつか記載されていることに鑑みると、歯科医療界での認知度も高まり、将来のう蝕診断の標準的な基準となる可能性があります。

初めに、杉山さんの ICDAS の出会いと歴史、カリオロジーに関する国際的な学会との関わりや学び、XR 開発の経緯等のお話がありました。その背景には、1970年代から国内でもう窩が減少し、カリオロジーがクローズアップされ、再石灰化療法や経過観察に関心が集まるという変化があり、初期う蝕の診査・検出のキャリブレーションが重要になるなかで、杉山さんが ICDAS に着目し、大変な熱意で導入した経緯を紹介されました。

その後、ICDAS コードと XR の診査法についてご教示いただき、ICDAS はプラークを取り除いたエアールによる乾燥下での視診が大事であり、診査方法だけではなく記録の方法やどのタイミングで誰が診査し、患者と情報共有するのか等、具体的な臨床での活用方法についてお話がありました。

次に、今回の Web セミナーのメインとして、いくつかの症例写真・X 線写真を提示し、クイズ形式で ICDAS・XR の診査法を具体的にご教示いただきました。エナメル質形成不全や裂溝着色などコード分類に悩むケースもわかり易く解説していただきました。

今回の内容は ICDAS・XR の診査法を導入したい、導入したがどのように活用すればいいのか、また新人歯科医師やスタッフの教育にピッタリのセミナーだと思いました。

コロナ禍のなかですが、オンラインセミナーは比較的自由に受講でき（特典として YouTube で1ヵ月視聴可能。詳しくは学会ホームページ参照）、また Web セミナーならではのスライド症例写真の質の良さ、また講師との診断のキャリブレーション、質疑応答など、一方通行ではないライブ感があり大変満足できました。

当学会の企画育成委員会では、今回のセミナーを聴き逃した会員、また再度受講したいという会員向けに、今後また同じような内容の Web セミナーを開催することを考えています。ぜひご参加ください。

コード1：目視できるエナメル質の変化

肉眼で見つけることができる最初期のう蝕の徴候を表す。

歯の表面から十分なエアール乾燥によって水分を取り除いたときに、光学特性が変わり不透明になって見つけることができるが、湿潤状態では正常なエナメル質と区別しにくい病変である。

小窩裂溝では、乾燥しなくても着色のために容易に見つけることができる。この小窩裂溝の着色は、お茶やコーヒーによる小窩裂溝の着色（コード0）と似ているが、非う蝕性のものはほとんど小窩裂溝に対称性に認められる傾向がある。



第2回 2020年7月21日(火) 20:00～

カリエスマネジメントセミナー (講師; 杉山精一)

第2回目のWebセミナーは、杉山精一代表による「カリエスマネジメントセミナー カリエスマネジメントの基本 CRASPをマスターしよう」という演題で、CRASPを知らない、または臨床で使っていない歯科医師と歯科衛生士を対象に行われました。

今回は平日の夜にも関わらず北海道から九州まで様々な地域から20名以上の参加があり、Webセミナーの利便性の良さを感じました。

当院では既にCRASPは導入して日々の臨床に使用していますが、知識のブラッシュアップと後ほどYouTubeを使ったセミナー動画をスタッフと一緒に勉強できる機会もあり、ぜひ参加してみたいと思いました。

まずは、日本のう蝕有病者率やフッ化物歯磨剤の普及率、カリエス病因論、杉山歯科でのカリエスリスクマネジメントの推移・考え方を説明され、CRASPを開発された経緯をお話されました。そのなかでは、海外の多数の文献も紹介され多くのエビデンスを知り、大変示唆に富む内容でした。

次に、CRASP、CAT21の具体的な使用方法について紹介され、誰がどこでどのように実施されているのか、わかり易く紹介されました。CRASP、CAT21の活用について、講師は一例として提案しており、使用する診療所毎にカスタマイズしていただければ、とのお話でした。また症例を二つ(子どもと高齢者)カリエスリスクの変化をCRASPを通して提示していただき、大変参考になるスライドでした(オンラインならではの、口腔内写真やX線写真が大変クリアに閲覧できます)。

まとめとして、検査ありきのカリエスリスクマネジメントではなく、現在起きているう蝕の進行状況に対する最低限のチェックをするツールであり、日々変化する将来のカリエスリスクを診断するものではないということでした。自分としても大変腑に落ちる内容であり、ぜひ院内でも改めてスタッフと共有したいと思いました。

CRASPの用紙を使い、音声で実際に記入する体験ワークがあり、最後にQ&Aでの10件程の質疑応答があり、WEBならではのライブ感のなかでセミナーが終わりました。

なお、今回のWEBセミナーはデンタルダイヤモンド社の取材も受けており、このような考え方・勉強会が歯科会に広く普及していくことを期待します。

第3回 2020年8月12日(水) 20:00～

カリエスマネジメントの基本 臨床例から学ぶ Part1

(講師; 杉山精一)

第3回目のWebセミナーは、杉山精一代表による「カリエスマネジメントの基本 臨床例から学ぶ Part1」です。

今までカリエスマネジメントについては第1回ICDAS、第2回CRASPについて講演され、ヘルスケア歯科診療としてのう蝕の診査診断の基礎を学びました。今回からは実際の臨床例でカリエスマネジメントについて学ぶ3回にわたるコースです。

当学会では、う蝕治療は従来のう蝕の処置(削って、詰める)ではなく、脱灰と再石灰化のバランス考え病因論に基づいたう蝕治療を推奨してきました。当院でも日々そうした考えで診療を行っていますが、知識のブラッシュアップのため、ぜひ参加してみたいと思いました。

まずは、修復治療の経過を杉山歯科での実際の症例でいくつか供覧し、一度修復した歯は再治療が必要になるという結果を、いくつかの文献でご教示いただきました。

次に歯の喪失に至る原因の解説がありました。定期的に来院されている患者さんが抜歯に至ることは、我々も大変残念です。この原因は歯周病の方が多いように思われますが、実はう蝕由来、すなわち根管治療をした歯根の破折や根尖病変などの方が多いとのことです。よって、いかにう蝕を重症化させないかが重要だとお話されました。

その後、実際のカリエスマネジメントをわかりやすく解説していただきました。特に重要なのは定期的に経過を診ることで、患者さんと情報を共有し現在の状況を知ってもらうことです。現在これだけ多くの歯科医院がありますが、患者さんの意思で定期的に来院してもらうには、継続した資料を共有しカリエスマネジメントの情報をシェアすることが重要であるとお話され、大変共感を持ちました。

最後に、講師から「裂溝の黒変などすぐに削りたくなるかもしれないが、その時は一度記録を採って半年一年と経過を診てください。患者さんも自分の歯の状況を知れば来院してくれます。変化がなければ削る必要はないのです。これ以上、歯を削るのはやめましょう」というまとめでWebセミナーが終了しました。

オンラインでもヘルスケア

寺岡徳光（歯科医師・医療法人こぐま小児歯科／医療法人坂田歯科医院勤務）



Webセミナー委員の寺岡です。本ニュースレターでも様々なところで案内がなされていると思いますが、7月より本格始動したWebセミナーやオンラインサロンについて、「Webセミナー委員」として、またある時は「受講生」として参加してみて、私なりに感じたことを書かせていただきます。

コロナ禍でセミナーや学会は、どこもかしこも次々とオンラインで開催されていますが、ヘルスケアのオンラインセミナー（ここではWebセミナーもオンラインサロンも分かりやすいように敢えて「セミナー」と表記します）の魅力は、参加者と講師（ホスト・パネリスト）との距離の近さにあるのではないかと考えています。

ヘルスケアの和気藹々とした雰囲気そのままに、オンラインでも時に真剣に、時にゆる〜く（?）、活発に議論がなされています。もちろんリアルで直接会って交流できないのは残念な部分もありますが、考え次第では質問もしやすいのかな、なんて思ったりもします。

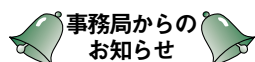
写真は8月4日のオンラインサロン、テーマは「ヘルスケアってなんだろう?」のものです。20名の方にご参加いただき、ZOOMの機能をうまく利用しながら、各々のヘルスケア型歯科診療への想いを聴くことができました。

さすがに20名も集まるとキャリアや立場も様々で、私のような若手勤務医の立場では考えられないようなお話もたくさんお伺いでき、今後の将来に役立つトピックスが盛り沢山でした。

私はヘルスケアでの勉強はまだ浅いですが、逆にこうした環境だからこそ（もちろん地方在住者という側面も強くありますが）、ヘルスケア歴の長い先輩方との距離感が近づいたのではないかなと思っています。ある意味、コロナ禍においてポジティブに活動してよかった部分です。

今後は学会外部からの講師もお招きしたり、医院単位で参加できるものを企画したりと、更なる内容の充実を図っていきます。「こんな内容の話が聞きたい!」、「この人の話を聞いてみたい!」などありましたら、ぜひ教えてください。

まだまだスタートしたばかりで運営サイドとしては至らぬ点も多いかと思いますが、逆に言ってしまえば、まだまだセミナーとしての雰囲気を作っている段階ですので、どなたでも気軽に参加できるかと思います。私のようにヘルスケア歴の短い方も、少しヘルスケアとはご無沙汰だった方も、一緒に学んでいきませんか? ?



年会費口座振替のお知らせ

2019年より年会費の支払いについて、「株式会社アプラス」の収納サービスを利用し、口座自動振替を開始しています（詳細はニュースレター vol.22 no.3）。

毎年10月27日に翌年度会費が自動引き落としとなります。

2021年度分引き落とし日：2020年10月27日

現在お手続きされていない方で、引き落としをご希望される方は、このニュースレターに同封の申込書をご利用ください。

申込み締切：2020年9月17日

ヘルスケア web セミナー 9月

2020年9月9日(水) 20:00～ 約120分 途中休憩有り(3月スプリングセミナーの予定を30分拡大)

定員 50名

NCCL (Noncarious Cervical Lesion : 非う蝕性歯頸部歯質欠損) アップデート 2020

パネリスト: 黒江敏史 (山形県南陽市開業)

う蝕が原因でない歯頸部歯質の欠損 (NCCL) は、日常臨床で頻繁に遭遇する。

しかし、その病因論に関して見解は大きく分かれている。教科書的には、摩耗・酸蝕・アブフラクションが三大原因として挙げられ、これらが複合的に関与した多因子性疾患と考えられている。しかし、日本の臨床家の間では、アブフラクションとして咬合関連の疾患と見なされることが多いように思われる。一方で海外の NCCL に関する文献レビューでは、「アブフラクションには信頼できるエビデンスはない」とする結論が一般的である。この混乱を整理するため、三大原因の科学的・臨床的根拠をアップデートして検証する。

また、NCCL と同様に非う蝕性の歯質欠損である tooth wear との関係についても考察する。



【執筆掲載雑誌】
日本歯科医師会雑誌 8月号
ザ・クインテッセンス (2019年7~9月号)
歯科衛生士 (2019年10・12月号)

2020年9月23日(水) 20:00～ 約60分

定員 30名

カリエスマネジメントセミナー (第4回)

カリエスマネジメントに必要なフッ化物の知識

パネリスト: 杉山精一 (日本ヘルスケア歯科学会代表 八千代市開業)

フッ化物の適切な応用は、カリエスマネジメントに欠かすことができません。以前は、フッ化物の局所応用が、海外に比べて規制が厳しい状況でしたが、ここ数年、1450ppm フッ化物歯磨剤の認可、フッ化物洗口剤の OTC 化 (2019年に第3類医薬品へ)、海外で広く使われているフッ化物パーニッシュの認可など、状況が改善しつつあります。

今回のセミナーでは、臨床におけるフッ化物応用の基本を確認し、最新の知識の整理をして、臨床で効果的にフッ化物を応用できるようにすることを目的としています。



ORCA 2020

杉山精一（日本ヘルスケア歯科学会代表・八千代市開業）

今年のORCA（European Organisation of Caries Research）は、リゾート地として有名なイタリアのサルディニア島で開催の予定だったが、新型コロナウイルス感染症パンデミックのため、オンラインで7月9日から11日に開催となった。3日間とも午後8時（日本時間）開始で、はじめに講演が1時間ほど設定され、その後、発表と質疑という形式であった。講演の内容は、初日が、小児若年者のカリエスマネジメント（Prof. Splieth）、2日目は、成人について（Prof. Schwendicke）、3日目が高齢者について（Prof. Paris）であり、各テーマについて現時点でのコンセンサスについて書かれた論文をベースにした講演だった。また、初日には、歯科大学における Cariology 教育についてのセッションがあり、今回は、アジア中東地域からの報告ということで、レバノン、インド、中国、ロシア、サウジアラビア、韓国の6カ国から報告があった。来年のORCA（Croatia, Zagreb）では、Cariology 教育についての特別シンポジウムが開催される予定である。

このレポートでは、私が発表した研究の概要について報告する。私の発表タイトルは、“Caries management of 6- to 18-years-olds in a Japanese private clinic”で、杉山歯科医院における6歳から18歳までのカリエスマネジメントの結果について、医院のデータベースを使って検索した結果の報告である。すでに2015年のORCAで、6歳から20歳の結果について発表していたが（ヘルスケア歯科誌, 2018; 18(1): 6-13）、DMFT単位で解析したため、どの歯面の切削が多いかが不明であり、この点を明らかにするために歯面単位のDMFSで調査したいと考えていた。また、2018年のORCAで、Ole Fejerskov先生から、デンマーク Odder 市の18歳の Filling Free が2017年には80%、と驚くべき数値の報告があり（図1）、私の医院における18歳の結果と比較したい考えたことも調査の大きな動機である。

調査は、2019年12月15日現在のデータベースから図2のような流れで対象者を選択した。68件が調査対象となり、その結果は図3である。18歳時のDMFT=1.31、DMFS=1.68であり、DMFS=2までが75%という結果を得ることができた。さらに、定期来院と不定期来院について、DMFS増加を比較したが、統計学的な有意差はないという結果だった（図4）。

今回の発表の前に、Odder市18歳の Filling Free が80%という結果について、資料で確認をしたいと考え、2011年に秋元さんがインタビューした機会に知り合い、2018年コペンハーゲンでのORCAで講演された Jette Christiansen 先生にメールしたところ、2017年の Odder 市の集計結果を教えてくださいることができた。メールには、80%はちょっと欲張り過ぎた数値で、実際のところは60%だったと教えていただいた。また、集計

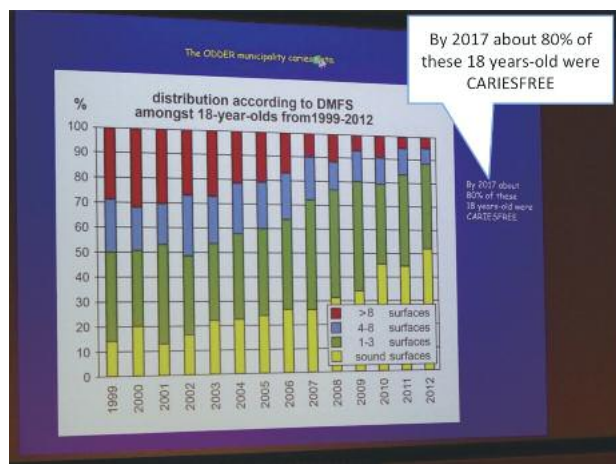


図 1

杉山歯科医院の診療データベースには、来院者全員が登録されている

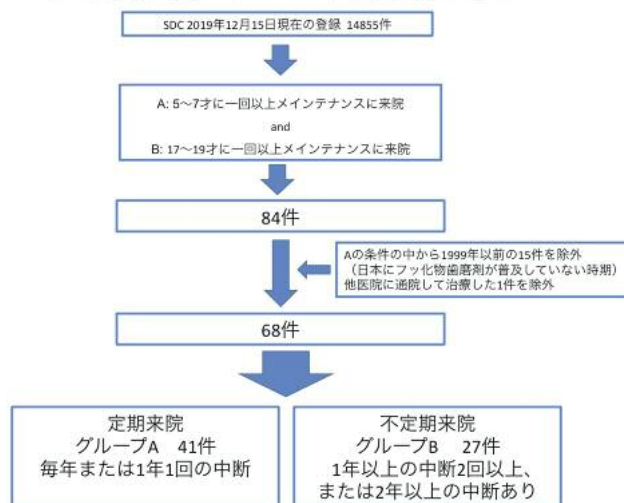


図 2

結 果	
対象者数	68
男性/女性(人数)	32 / 36
Baseline: age 1	5.5 ± 0.68
Final: age 2	18.3 ± 0.85
期間(年)	12.9 ± 1.1
Baseline: DMFT 1 / DMFS1	0.0/0.0
Final: DMFT 2	1.31 ± 2.29
Final: DMFS 2	1.68 ± 2.99
メンテナンス回数	23.2 ± 9.3

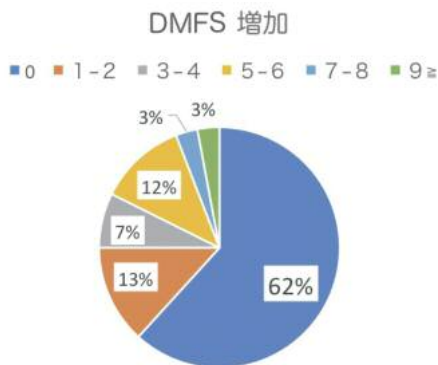


図 3

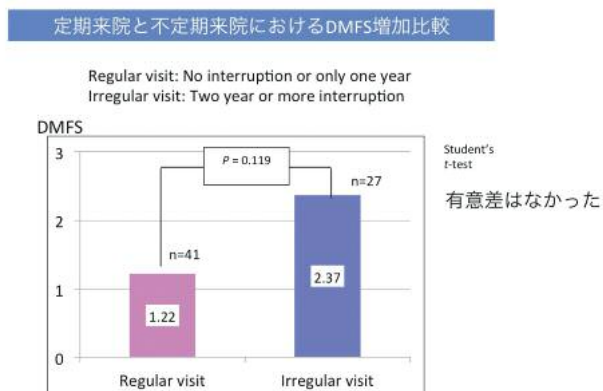


図 4



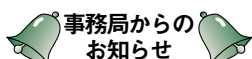
図 5

結果をみると、DMFSの数値が高いところにも分布があり、私の医院の結果と極めて似た分布となっていることがわかった(図5)。

DMFS=2までは、デンマーク Odder 市も、杉山歯科も 80%を越えているが、DMFS=10以上にも Odder 市は 2%、杉山歯科は 7%が存在していた。定期的にかリエスマネジメントを行っていても充填が多くなってしまいう数パーセントの存在が共通点という結果について、次回の ORCA 参加の際に症例を持って行き Christiansen 先生と議論してみたいと思っている。

ちなみに、杉山歯科で DMFS=16 となった人は、小学生時に上顎前歯の切削修復となっている。同様な症例が少数だが存在し、現在は、小学生時に切削修復となる症例は、Extreme High Risk 患者と考えて、可能であれば、毎月来院によるかリエスマネジメントを行うことを基本としている。

デンマーク Odder 市は、地域の住民すべてが 18 歳まで公的な歯科保健センターに通院して定期的なケアを受けた結果であるが、杉山歯科の定期来院者は、患者さんが任意に選んで通院し、定期来院を継続した結果であり、来院した人たちの社会的背景が異なるため、簡単に比較することはできないが、世界的にトップクラスの成果を上げている地域の結果とほぼ同等な成果を日本の診療室でも可能であることを知る事ができたのは、大きな成果だと考えている。



事務局からの
お知らせ

ウイステリア Pro6.0 バージョンアップについて

現在、ウイステリア Pro6.0 バージョンアップ準備中です。
2021 年より頒布開始予定です。
新しい機能が多数追加されます。リリースまでしばらくお待ちください。

- 新しい機能など (iPad も活用充実)
- ・患者情報
 - ・販売品管理
 - ・問診票
 - ・CRASP
 - ・サブカルテ
 - ・写真入力方式の統一 ほか

企画商品
Ver.UP



書評

カリエスブック

5ステップで結果が出るう蝕と酸蝕を予防するカリオロジーに基づいた患者教育

著者；伊藤直人

出版；医歯薬出版

2020年6月

定価；4,000円（税別）

ヘルスケア型歯科診療の柱の1つに、病因論の理解が挙げられています。う蝕の病因論を学ばば学ぶほど、卒業してから（大学時代の座学での勉強も含めて!）私自身が実践していた臨床とのギャップに戸惑ってしまいます。また、理論を学んだところで、実際にどうそれを目の前の患者さんに落とし込んでいけばいいのか、日々悩まされています。

こうしてカリオロジーの実践を試行錯誤しているなかで、今回このような書籍

と出会えたことに大きな喜びを感じています。

カリオロジーを扱う類書と比較して、特にこの書籍で印象に残っている点は、

- ①現代のカリオロジーの考え方を簡潔に、わかりやすい文章で学ぶことができる。
- ②著者が実際にどういう手順で臨床を行っているのかを学ぶことができる。という2点です。

各テーマを1ページという短い制約の中で、イラストや根拠となる文献が示されながら丁寧に説明されていますので、わかりやすいながらも説得力のある内容に仕上がっています。患者さんにどう伝えるか、という点についても具体的ところまで書かれていますので、臨床に落とし込みやすい内容となっています。ここまでカリオロジーを体系的にまとめるために、著者はどれほどの時間をかけて臨床と真剣に向き合い、そしてそれをシステマティックにまとめたのか… 並大抵の努力ではできないと思います。

とにかくわかりやすい内容ですので、ぜひヘルスケア型歯科診療に携わっている多くの歯科医療関係者の方に読んでいただきたいと思っています。



ただ読むだけではなく、1テーマごとに院内で、仲間内で、学会内で、様々なところでディスカッションすることで、さらに学習効果を得ることができる著書ではないかと感じています。私自身、SNSを通じてカリオロジーに興味のある方々と本書をもとに話をし、様々な考えに触れることができ、さらに考えを深めることができました。今回ニュースレターでこの書籍を紹介させていただきましたが、これを契機に私としても多くの会員の方々とディスカッションを行い、患者さんにもっともっと素敵な歯科医療を提供できるようになりたいと考えています。

（寺岡徳光 歯科医師・医療法人こぐま小児歯科／医療法人坂田歯科医院勤務）

書籍紹介

なぜ、あの歯科医院はメンテナンス患者が増え続けるのか？

編著；杉山精一

監修；一般社団法人日本ヘルスケア歯科学会

出版；デンタルダイヤモンド社

2020年4月

定価；6,000円（税別）

好評を博した月刊デンタルダイヤモンドの連載「What is ヘルスケア歯科診療？」。終了後、1年以上の期間をかけ、内容を大幅に再構成！「メンテナンス患者が多いあの歯科医院は、いったい何が違うのか？」そんな予防型歯科医院への疑問に答える1冊です。「予防は効果がわからない」、「地方じゃ難しいのでは？」などなど、多くの疑問に日本ヘルスケア歯科学会認証診療所の赤裸々なデータと、患者さんアンケートなどの事実をもとに回答します。

日本ヘルスケア歯科学会会員には、限定価格で販売しています。ぜひ会員用ホームページよりお申し込みください。

会員限定価格
1冊 5,680円
(税・送料込)



ヘルスケア フォーラム

東京 HCG Web 懇親会 開催報告

2020年7月5日(日) Zoom ウェビナー



林 浩司 (真岡市開業)

去る2020年7月5日(日)午前10時から東京ヘルスケアグループでWeb懇親会が開催されました。

まだ新型コロナウイルス感染拡大が懸念されてなかった2月9日の東京ヘルスケア診療所づくりミーティング(東京八重洲ホール開催)から数ヶ月が経ち、毎

年恒例の東京ヘルスケア・スタッフミーティングが6月21日に開催される予定でしたが、3月の時点で中止となり、そのままグループの活動が中止となりました。

この度、代表の川嶋剛さんのお声掛けで10名を越すメンバーが参加し、Web懇親会を開きました。Web上で、しかもテーマを決めずの開催でしたが、久しぶりに顔を合わせて話ができ、活

発な意見交換ができました。

まずは、川嶋さんの司会で、参加者一人ひとりの近況報告、その後、各々診療所の感染予防対策やスタッフへの配慮について、また様々な助成金の利用などについて話し合いをしました。なかでもスタッフにPCR検査を受けさせた話や時短勤務については参加者から積極的な質疑がありました。

東京ヘルスケアグループは関東中心で結成されたスタディーグループですが、東京都心部から栃木県などの地方では患者層や周辺環境に大きな地域差があることを感じました。

今後「コロナ後の世界」としてしばらくの間は感染への配慮から実際に集合してのセミナーやミーティングは難しいと考えられます。そのなかで、このようなWeb開催は当学会や各地方スタディーグループの活動スタイルの主流となるでしょう。如何にオンラインを活用できるか、が今後のカギなるのではと思いました。

2時間近く懇親を深めた最後に、今回Web開催に初挑戦した鈴木正臣さんから感動のお言葉をいただき、川嶋さんが再度の開催を約束して終会となりました。ご興味がありましたら、次回ぜひご参加ください。



新入会音信

2020年度の新入会者数

	2019年			2020年							合計
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
歯科医師	3	0	0	2	1	0	2	0	3	2	13
歯科衛生士	6	0	0	10	4	2	0	1	3	2	28
学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	3	1	0	0	2	0	0	1
合計	9	0	0	12	6	2	2	1	6	4	42

新入会者紹介

宮井静香 (歯科衛生士)

私は約30年の臨床経験の中で、いかに重度歯周病を安定期に導く事ができるかに重さを置いてスキル向上に取り組んで参りましたが、この度医院の改革により健康な患者さんに内在する未病に焦点をあて、家族予防を中

心とした医院に生まれ変わる事になりました。データ活用を中心としたヘルスケア学会に入り、まずは自身の行動変容と意識改革が必要かと思いました。50歳からのリスタート、頑張りたいと思います。

今村 豊 (歯科医師)

臨床歴32年を経過しましたが、常に向上心持ちたいので入会しました。歯科医師であるかぎり、上をめざして臨床を行っていきたい。

調査 1

Doプロジェクト 拡大調査 1 について

これまで Do プロジェクト調査 1 として、協力歯科診療所の 1 年間の全初診患者データの集計を 14 年間（2005～2018 年）にわたって続けてきました。これは、他の学会では決して真似のできない貴重なデータです。

昨年からは、この調査を拡大し、初診患者だけでなくウイステリアに蓄積されているすべての患者データを提出していただき、予防的定期管理の結果をまとめる調査を始めています。昨年のデータを基にした研究について、学会誌に報告するために現在論文を試みています。

日本ヘルスケア歯科学会は 20 年以上にわたって予防的歯科

診療を行い、最近では CRASP のように患者に有効なシステムを開発してきましたが、それらの結果を示すこの拡大調査こそが、日本ヘルスケア歯科学会の存在意義といえるほどに重要な調査事業です。患者名を特定できないように匿名化したうえでデータを収集していることは言うまでもありませんが、協力歯科診療所名についても事務局で匿名化し、分析者はブラインドで分析をしています。ご提出いただく蓄積データの量は、問いません。ヘルスケア診療の経験の長さも問いません。ぜひウイステリアを活用しているすべての会員の参加をお願いします。

（藤木省三 日本ヘルスケア歯科学会 副代表）

* 調査の目的：

- 1) 日本ヘルスケア歯科学会の会員診療所の協力により調査を行い、日本における歯科疾患の状況を把握することを助ける資料とし、今後の歯科医療環境の改善に役立てる。
- 2) 歯科医院に来院する初診患者の状況を把握して、診療室における診療システムの改善に役立てる。

* 調査参加資格：

- 1) 日本ヘルスケア歯科学会会員の診療所
- 2) 対象ソフトのユーザーで資料をデジタルデータで提出できること

* 調査対象患者：

調査名	対象ソフト	調査対象	備考
拡大調査	ウイステリア	ウイステリアに蓄積された歯科医院の全患者のレコードが対象（定期管理の結果も合わせて解析したいと考えているため、子どもの DMFT の変化と成人の歯周組織検査結果（初診・再評価・最新）の解析を計画しています）。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「定期管理の入力件数が少ない」「定期管理の継続が少ない」という場合でも可。使えるデータだけ使用します。 ● 拡大調査でいただきましたデータより、2019 年度の初診患者調査データを抽出させていただきます。
2019 年度 初診患者調査	ウイステリア	2019 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日に来院した初診患者全員 5 歳から 20 歳：DMFT 20 歳以上：DMFT・残存歯数・歯周病進行度・喫煙経験	● 初診患者全員すべての項目のデータが揃ってなくてもかまいません。例えば 1 日しか来院がなく、残存歯数のデータしかない場合でも可。
	デンタル X	2019 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日に来院した患者全員 抽出ファイル（歯周病・dmf-DMFT）	

提出される調査の抽出用ファイルを学会ホームページよりダウンロードしてご利用ください（抽出マニュアルも同梱）。

* 資料提出期限：2020 年 10 月 31 日

* 参加申込：2020 年 9 月 11 日（認証診療所は更新要件です）

* その他：患者さんを匿名化して提出していただいたデータは、事務局で診療所名を匿名化したうえで集計します。結果はニュースレターあるいは会誌にて公表します。

Healthcare bibliography



雑誌掲載

ちいさなおくちじまん

中本知之

nico 6月号 p.8-9 クインテッセンス出版

教えて！歯医者さん Q & A

意外と見逃しがち！ 12歳臼歯のむし歯にご注意を

中本知之

nico 7月号 p.50-51 クインテッセンス出版

予防の常識・非常識

藤木省三

nico 7月号、8月号 p.60-61 クインテッセンス出版

After the Debut

外傷歯治療、15年の治療経過から学ぶ

ミニマルインターベンションの重要性

泉英之

ザ・クインテッセンス 8月号 p.70-82 クインテッセンス出版

院内外のスマート処世術

年名淳

DHstyle 8月号 p.71-79 デンタルダイヤモンド社

この道30年 専門家が教える誠のスタッフ教育

「ヒヤリングをしましょう」という話

井上和

デンタルダイヤモンド 6月号 p.146-147

デンタルダイヤモンド社

この道30年 専門家が教える誠のスタッフ教育

「お父さんやお母さんでいてほしい」という話

井上和

デンタルダイヤモンド 8月号 p.158-159

デンタルダイヤモンド社

ウェビナー告知板

ウェビナーの参加は会員に限ります。参加希望される方は学会ホームページよりお申し込みください。お申込み後、自動で申込完了メールが届きます。Zoom ミーティングの URL が記載されていますので、こちらからご参加ください。もしメールが届かない場合は、事務局までお問い合わせください。

□ Web セミナー (参加費：3,000円)

- 5回** 2020年9月9日(水) 20:00～(120分 アーカイブ配信なし)
NCCL (Noncarious Cervical Lesion : 非う蝕性歯頸部歯質欠損)
アップデート2020
パネリスト：黒江敏史 (外部講師 山形県南陽市開業)
- 6回** 2020年9月23日(水) 20:00～(60分)
カリエスマネジメントセミナー (第4回)
パネリスト：杉山精一
- 7回** 2020年10月7日(水) パネリスト：杉山精一
カリエスマネジメントセミナー (第5回)
- 8回** 2020年10月11日(日)* パネリスト：渡辺勝
ヘルスケア型診療における感染管理対策セミナー (滅菌セミナー)
- 9回** 2020年10月14日(水) パネリスト：田中正大
- 10回** 2020年10月25日(日)* パネリスト：杉山精一
医院でカリエスマネジメントを実践するために必要なことを知る
- 11回** 2020年10月28日(水) パネリスト：斉藤仁

* 医院参加型 (スタッフ参加型) 9:00～12:00

□ オンラインサロン (参加費無料 要事前登録) 毎週火曜日

- 8回** 2020年9月8日 ホスト：杉山精一 ゲスト：石塚洋一
イエテボリ大学カリオロジー科に留学中の石塚先生に聞く
- 9回** 2020年9月15日 ホスト：高橋啓
皆何使っている？ おすすめ機械、器材について話そう
- 10回** 2020年9月29日 ホスト：渡辺勝
コミュニケーションの原理とコツ
- 11回** 2020年10月6日 ホスト：林浩司
スタッフが辞めない歯科医院とは？
- 12回** 2020年10月13日 ホスト：中本知之
メンテナンス時のチェックポイント
- 13回** 2020年10月20日 ホスト：高木景子
ヘルスケアの壁についてなんでも話そう
- 14回** 2020年10月27日 杉山精一
情報と資料整理どうしていますか？

※ 9月は21:00より開始、10月は20:00より開始



Web セミナー

※ウェビナーの参加費をヘルス通貨 (日本ヘルスケア歯科学会内 互助通貨) と交換にて後日返金することが可能です。申込は PayPal 支払いでの登録が必須となっておりますので、申込後にヘルス通貨使用の旨を事務局にメールまたはFAXにてお知らせください。お持ちのヘルス通貨を確認後、返金手続きといたします (返金手数料は事務局負担)。
1セミナー：5ヘルス



オンラインサロン

ヘルスケアミーティング 2020

特別シンポジウム

歯周病の新分類；「侵襲性」はどこへ行った？

2020年11月22日(日) 12:30～15:30

秋葉原カンファレンスフロア 5階会議室 (東京・秋葉原)

およびオンライン (Zoom ウェビナー)

新型コロナウイルス感染症拡大のため、ヘルスケアミーティング 2020 は、2日間のプログラムを大幅に縮小して半日のプログラムとし、主にオンライン (Zoom) での開催とします。秋葉原カンファレンスフロアの会場は、3密を避けて定員を大幅に減らして40人定員とします。なお、講演1の関野 愉先生と問題提起の杉山精一代表は、秋葉原の会場で講演します。

☆プログラム

- 12:30 オープニング (オンライン参加者への説明など)
- 12:35 新型コロナウイルス感染症禍と今後の展望 杉山 精一 (日本ヘルスケア歯科学会 代表)
- 12:50 問題提起 歯周病の新分類—どう変わる? どう活かす? 杉山 精一
進行の早い歯周炎に遭遇することがあります。早期に発見して治療、メンテナンスできればと思いますが、原因はよくわかっていません。新分類では、侵襲性歯周炎という名称がなくなりました。今後、どのように考えて対応すればいいのでしょうか。歯周病研究の現状を整理して理解し、最新の研究成果を勉強する機会としましょう。
- 13:05 講演1 歯周病の新分類の臨床的意義 関野 愉 (日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 准教授)
新分類で、侵襲性歯周炎という名称がなくなった背景と、新分類の考え方と臨床的な活かし方について解説していただきます。
- 13:55 休憩
- 14:05 講演2 新分類のグレードを分けるバイオマーカーを探る 久保庭 雅恵 (大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子免疫制御学講座 准教授)
歯周病の進行に関わる因子についての最新の研究ゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクスとは何かを概説し、歯周病の進行に関わる因子に関する主要な研究成果を紹介していただきます。
- 15:00 質疑 (オンライン参加含む)
- 15:30 終了



☆参加費

オンライン参加費 5,000円/1アカウント

会場参加費 5,000円/1名 (定員40名)

※オンラインでの視聴 (Q&Aあり) は個人参加も診療所内や複数の診療所が集まって参加する場合も1アカウント同額です。但し、複数視聴は何人でも構いませんが、デバイス (通信機器) は1アカウント1台のみ受信可能とします。

☆お知らせ・ご注意

参加は会員及び会員診療所スタッフに限ります。

託児サービスはありません。

会場参加は定員 (40名) になり次第締め切ります。

受付開始 10月19日10時より

オンライン参加は学会ホームページよりお申し込みください (メール・FAXではできません)。

会場参加申し込み Fax. 03-3260-4906

参加を申し込みます (news23-3)

ヘルスケアミーティング 2020 会場参加 申込み (会員専用)

(必要項目で記入、該当欄に✓印を記入ください)

フリガナ	会員番号:	フリガナ	会員番号:		
ご氏名	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 会員その他 <input type="checkbox"/> 非会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 非会員その他	ご氏名	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 会員その他 <input type="checkbox"/> 非会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 非会員その他		
フリガナ	会員番号:	フリガナ	会員番号:		
ご氏名	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 会員その他 <input type="checkbox"/> 非会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 非会員その他	ご氏名	<input type="checkbox"/> 会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 会員その他 <input type="checkbox"/> 非会員歯科医師 <input type="checkbox"/> 非会員その他		
勤務先・診療所名		参加申し込み人数	人	合計金額	円
住所 〒	-	電話番号	-	-	-
		FAX 番号	-	-	-
e-mail					